

資料編

市民アンケート調査

①調査の概要

市民の情報化やデジタル利活用へのニーズを把握するため、アンケート調査を行った。郵送で調査票を配布し、回収は郵送と Web で行っている。調査の概要は以下の通りであり、合計で 484 票を回収した。

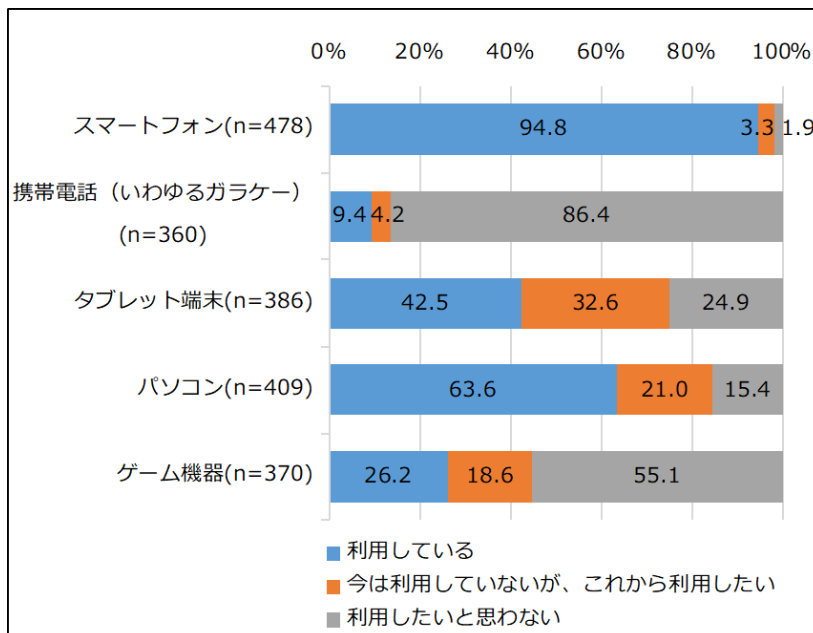
図表 アンケート調査の概要

| | |
|-------|---|
| 調査方法 | <ul style="list-style-type: none">● 郵送による調査票送付、郵送による返送と Web 回収を併用● 2022 年 11 月 7 日に発送、11 月 21 日に締め切り |
| サンプル数 | <ul style="list-style-type: none">● 住基台帳からのランダムサンプリングで 1500 サンプルを抽出● 18 歳～70 歳の市内在住者を対象 |
| 回収状況 | <ul style="list-style-type: none">● 484 件(郵送 322、Web162)、回収率 32.2% |

②市民の ICT 利用状況

回答者の約 95%がスマートフォンを利用しており、「今後も利用したい」を含めると 98.1%がスマートフォン利用者になる。従来型の携帯電話（いわゆるガラケー）は、9.4%が利用している。また、パソコンは 63.6%、タブレット端末も 42.5%が利用している。

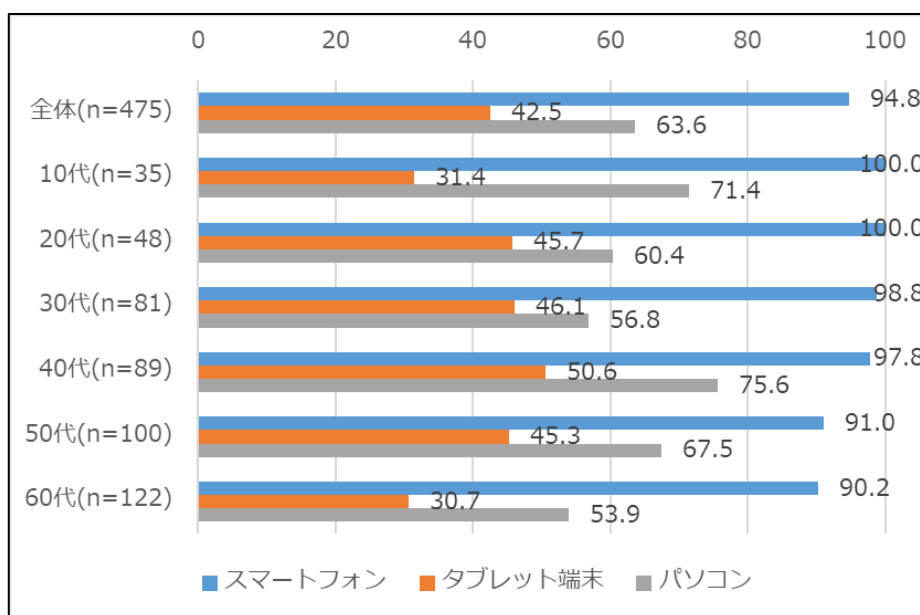
図表 ICT 機器の利用状況



ICT 機器の利用状況を、スマートフォンとタブレット端末、パソコンについて年齢別の集計を行うと、10 代～40 代でのスマートフォン利用率が目立っている。タブレット端末は 20 代から 50 代で 4～5 割の利用率ということが分かる。

また、パソコンは 40 代以上の利用も多くなっており、60 代の 53.9%がパソコンを利用している。

図表 ICT 機器の利用状況(年齢別集計・抜粋)



*選択肢によって回答母数(n)が異なる。グラフ中の n はスマートフォンの n を表す。

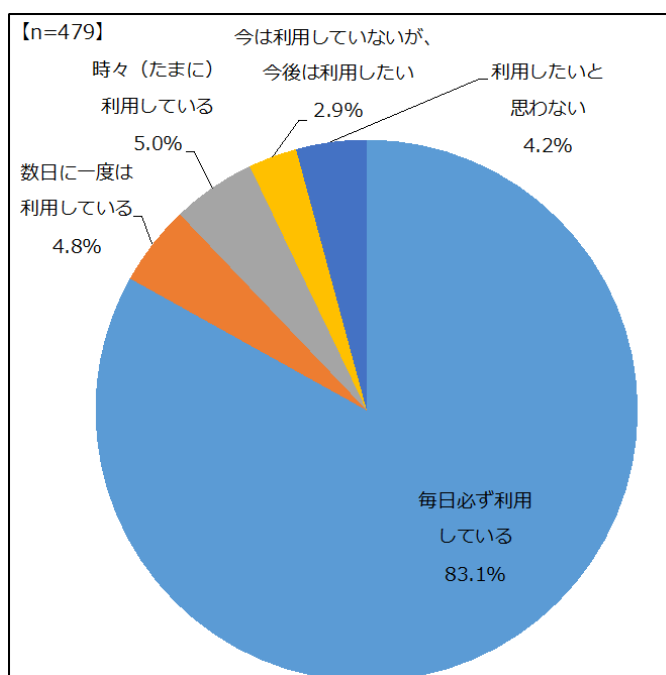
その他の n 数は以下の通りである。

タブレット端末:全体 384、10代 35、20代 46、30代 76、40代 77、50代 75、60代 75

パソコン:全体 407、10代 35、20代 48、30代 74、40代 78、50代 83、60代 89

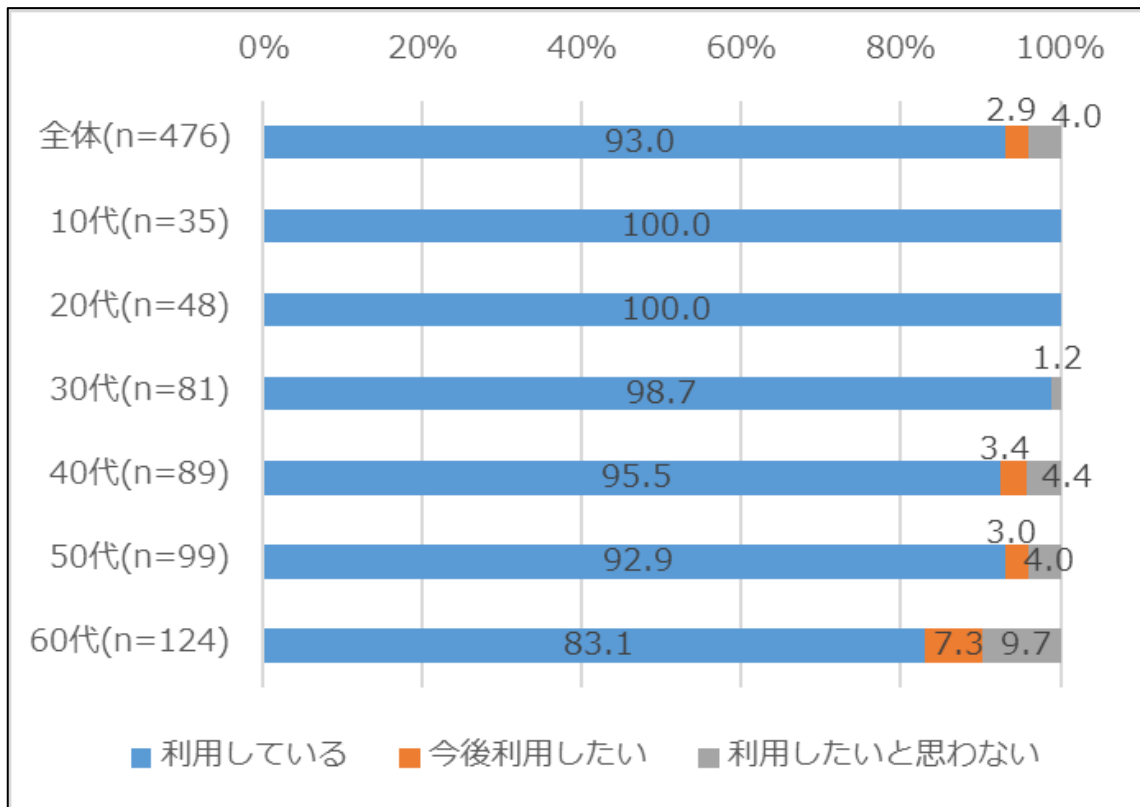
SNS の利用も含めたインターネットの利用状況は、回答者の 83.1%が毎日利用しており、「数日に一度」と「時々」を含めると 92.9%が利用している。「利用したいと思わない」は 4.2%と少ない。

図表 インターネットの利用状況



年代別に見ると、60代での利用率がやや低くなっている。「毎日必ず利用・数日に一度は利用・時々利用」を「利用している」にまとめた場合、60歳代では利用者が83.1%と90%台を割り込んでいる。また、「利用したくない」が9.7%となっている。

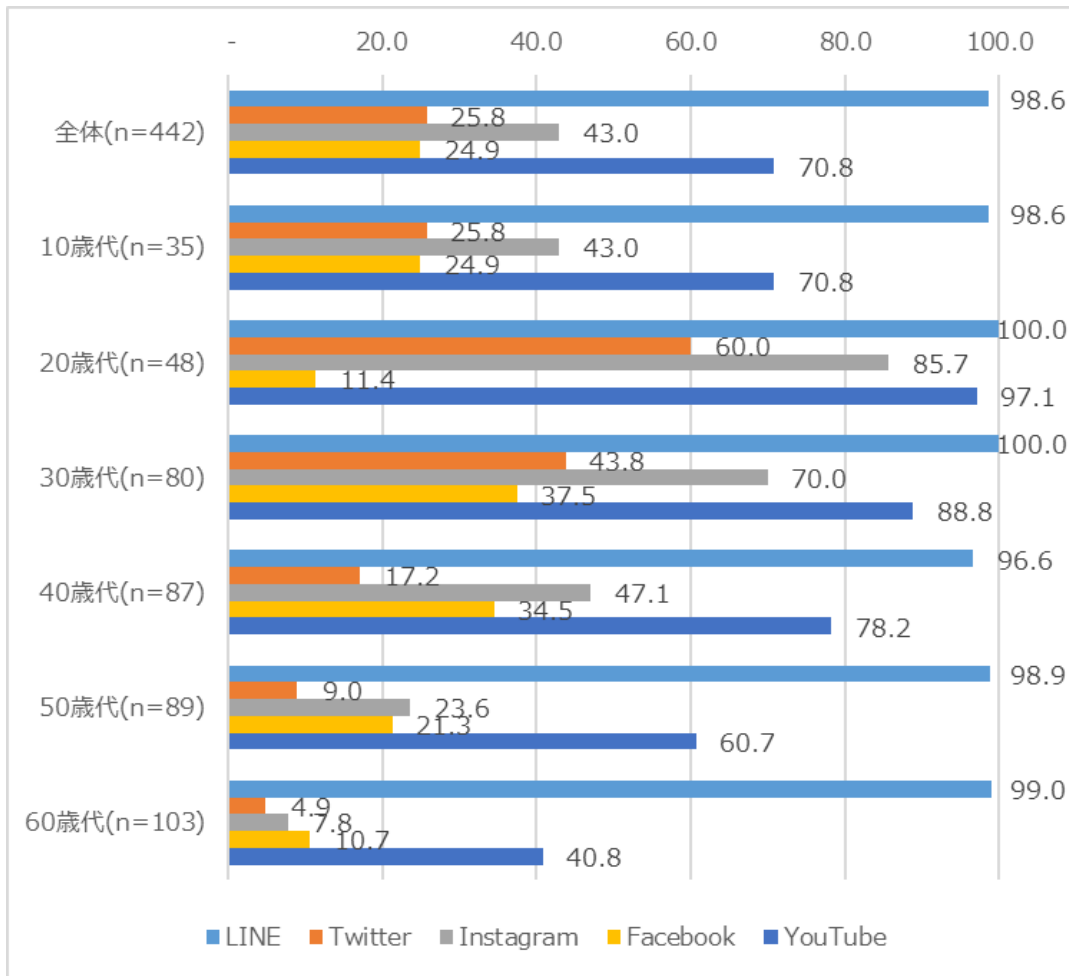
図表 インターネットの利用状況(年齢別)



SNSの利用状況は、すべての世代で「LINE」がほぼ100%の利用率となっている。世代的な傾向では、TwitterとInstagramは20代と30代での利用は多いものの、他の世代では利用率が下がる。Facebookは30代と40代での利用率がやや高い。YouTubeはLINEに次ぐ利用率となっており、幅広い世代で利用されているが、60代での利用率は半数以下となっている。また、60代ではLINEとYouTube以外のSNSはあまり利用されていない。

なお、総務省が実施した「2020年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」では、2020年度のLINEの利用率は90.3%、YouTubeは85.2%、Instagramは42.3%、Twitterは42.3%、Facebookは31.9%であった。LINEとYouTubeの利用率がTwitter・Instagramより高いのは南城市での調査と同じ傾向である。

図表 SNSの利用状況

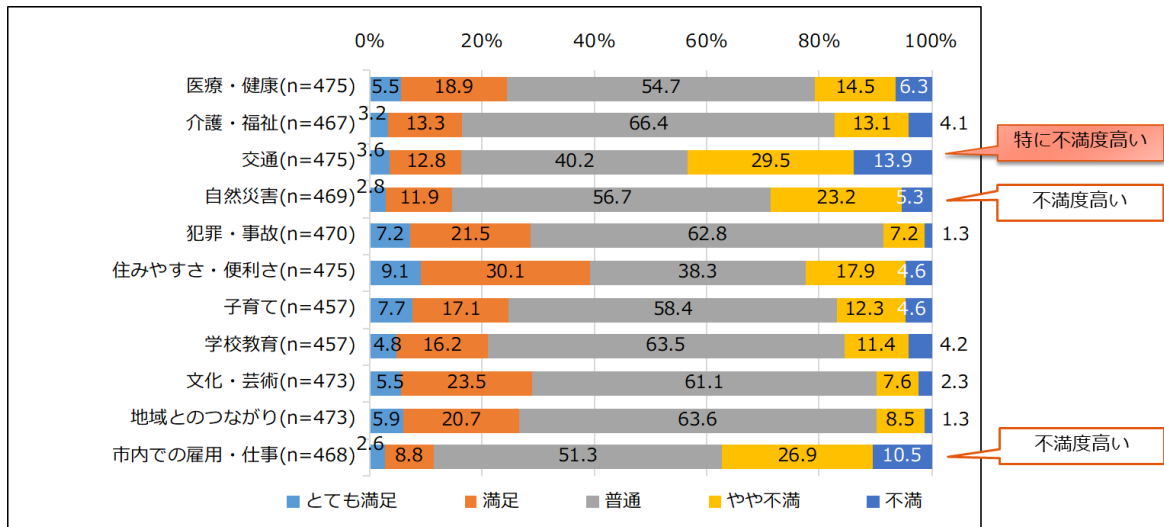


③南城市の満足度

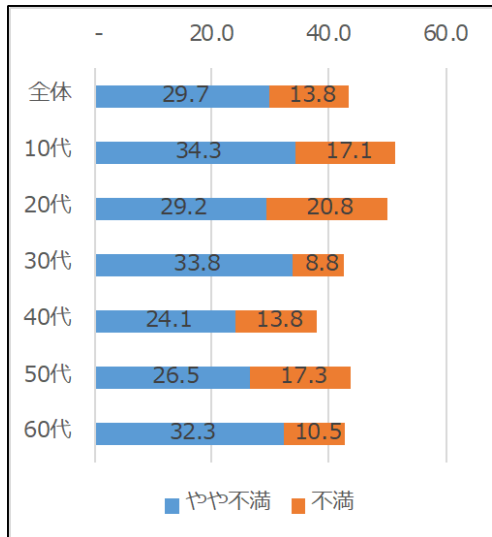
「医療・健康」や「介護・福祉」など様々な分野に対する満足度について質問したところ、「住みやすさ・便利さ」や「文化・芸術」、「地域とのつながり」は満足度が高いことが示された。逆に不満度が高い分野は「交通(合計 43.4%)」、「市内での雇用・仕事(合計 37.4%)」、「自然災害(合計 28.5%)」である。

特に交通分野では半数近くが不満を感じており、「やや不満」と「不満」の傾向を分析すると年齢層では10～20代の若年層での不満が高い。また、通勤通学先では市外に通勤・通学している人の不満が最も高いが、通勤通学をしていない人でも交通関連の不満が高いことがわかる。さらに、転居意向別に見ると、「住み続けたいが転居すると思う」「転居すると思う」の市外への流出可能性が高い層の不満が目立つ結果となった。

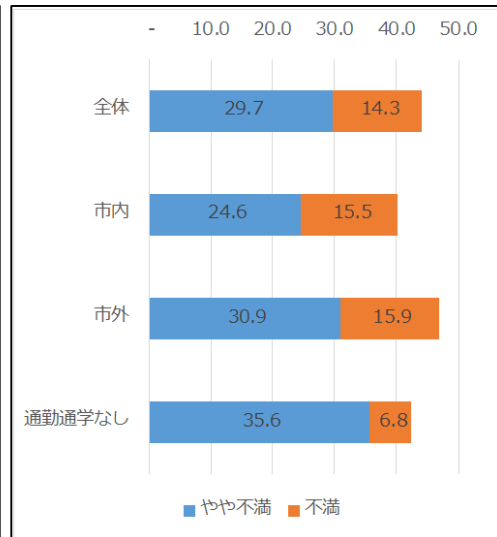
図表 南城市の満足度



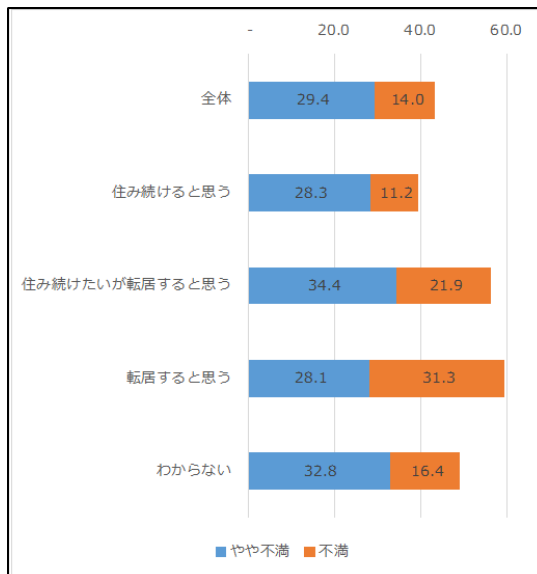
図表 「交通分野」の不満(年齢別)



図表 「交通分野」の不満(通勤通学先別)



図表 「交通分野」の不満(転居意向別)



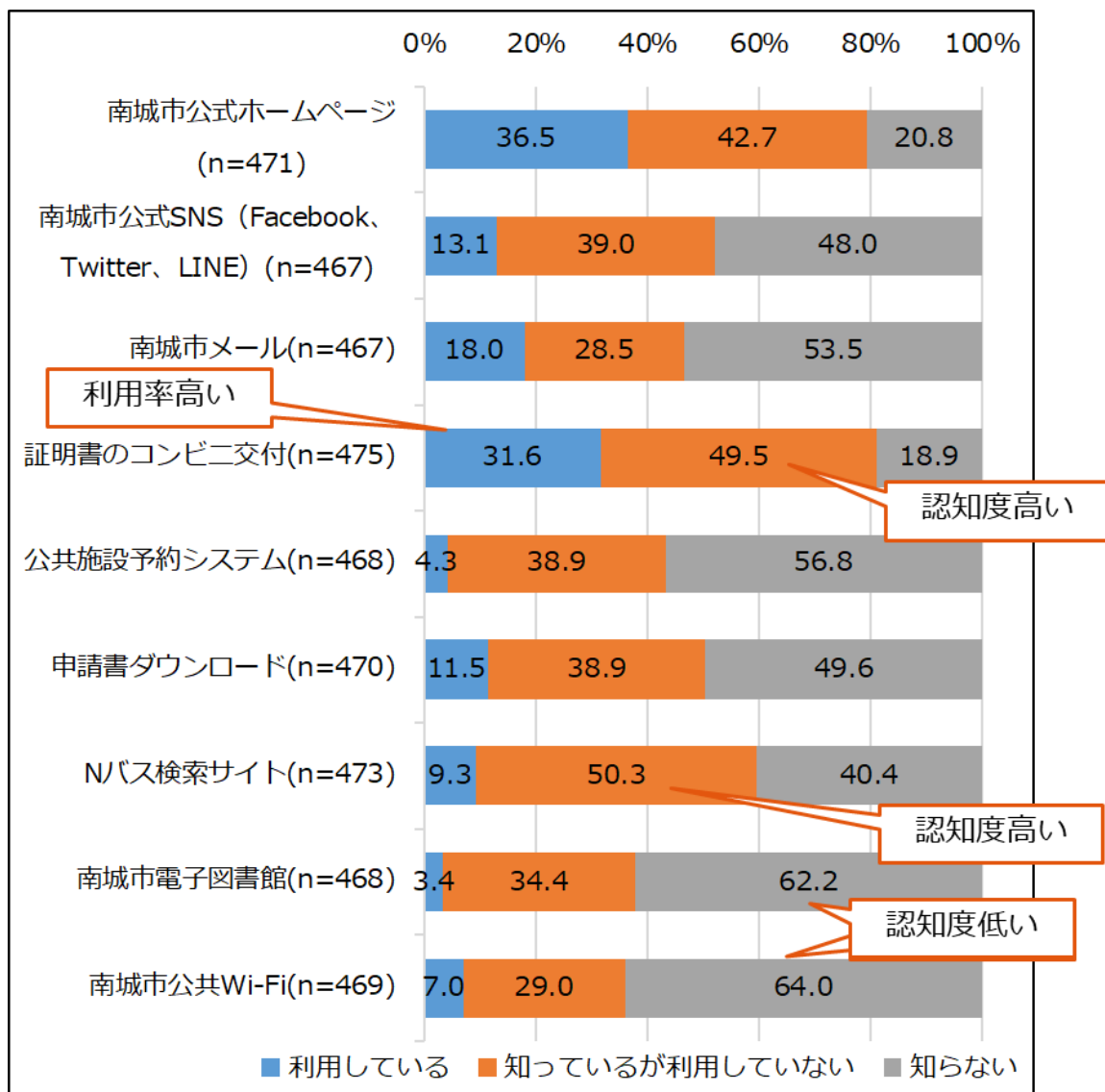
④電子的な行政サービスの利用状況

現時点で南城市が提供している電子的な行政サービスのうち、利用率が高いサービスは、「公式ホームページ（36.5%）」、「証明書のコンビニ交付（31.6%）」である。両者とも認知度も高く、半数近くが「知っている」と回答している。

「Nバス検索サイト」は「知っているが利用していない」が50.3%と認知度は最も高いものの、利用している人が9.3%に止まっている。「申請書ダウンロード」や「公共施設予約システム」も認知度はそれぞれ38.9%であり、今後の利用者増加が期待できる。

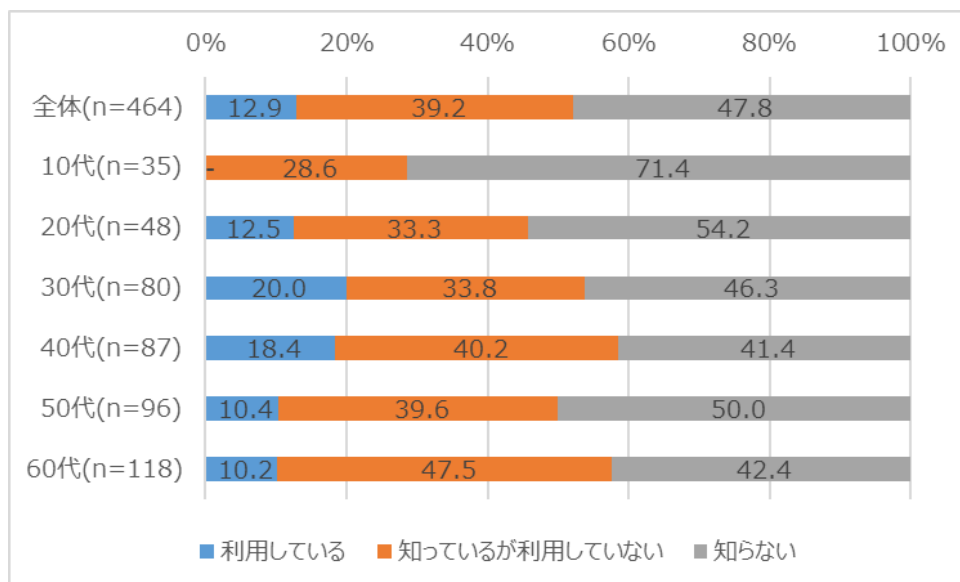
認知度が低かったサービスは、「南城市公共Wi-Fi（64.0%）」と「南城市電子図書館（62.2%）」であり、それぞれ60%以上が「知らない」と回答している。利用率は「南城市公共Wi-Fi」が7.0%、「南城市電子図書館」が3.4%であり、利用率を高めるためには認知度の向上が必要である。

図表 電子的な行政サービスの利用状況



年齢別に特徴的な傾向があるサービスは、まず「南城市公式 SNS」である。本来、SNS は若年層の利用率が高くなっているが、「南城市公式 SNS」は 10 代と 20 代の認知度が低い。むしろ 40 代や 60 代に知られているサービスとなっている。利用率を高めるためには、SNS をよく利用するであろう若年層へのアプローチが必要である。

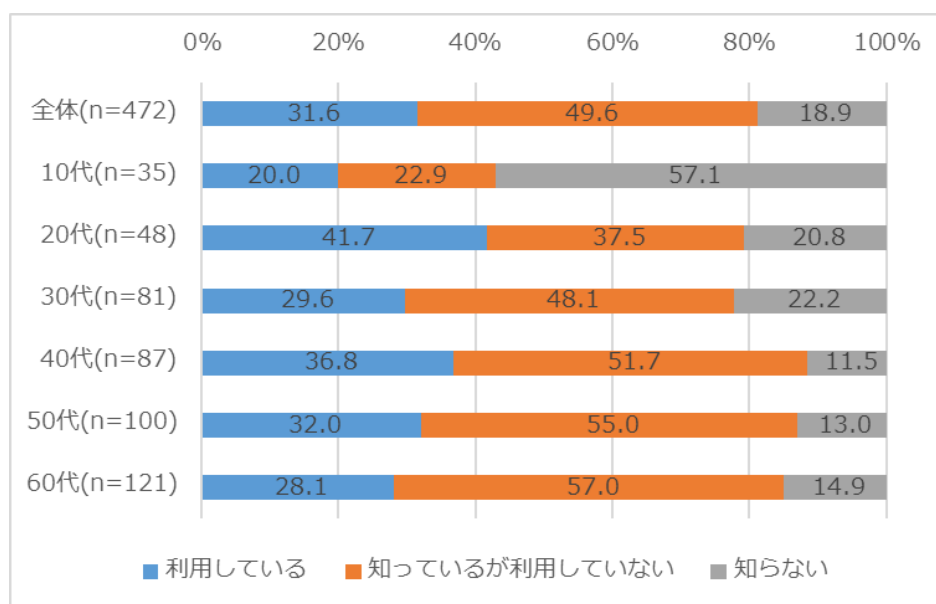
図表 「南城市公式 SNS」の年齢別利用状況



*クロス集計は不明・無回答を除くため、一部数値が異なる

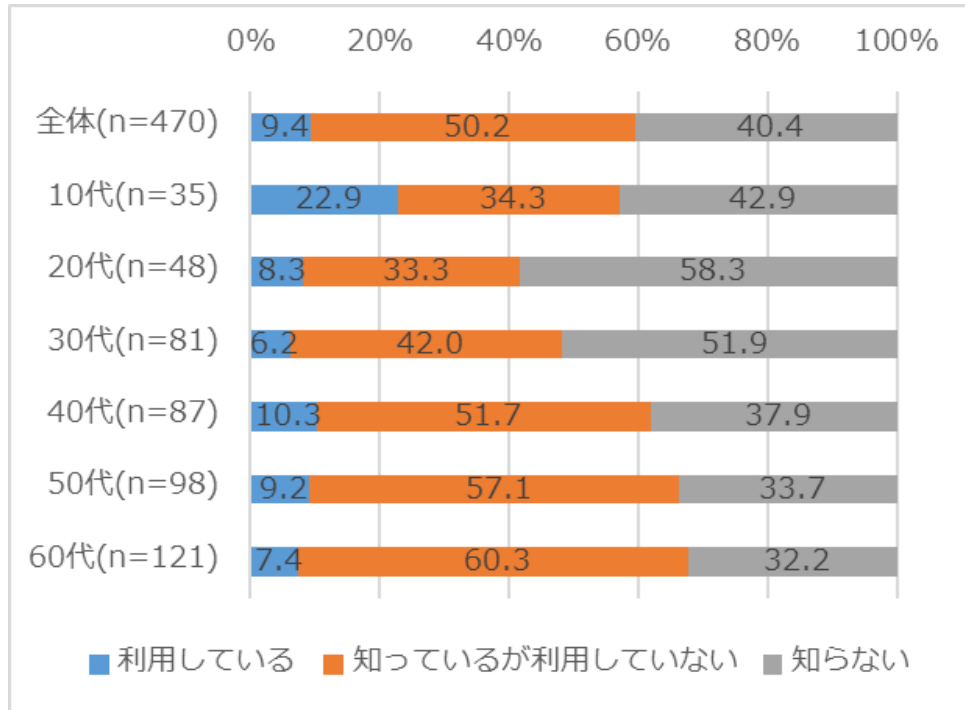
認知度が高い「コンビニ交付」を見ると、20代と40代、50代での利用が目立つ。年齢層が上がると認知度も高くなっているが証明書交付を必要とする世代が高年齢層であるためと考えられる。

図表 「コンビニ交付」の年齢別利用状況



同様に認知度が高い「Nバス検索サイト」を見ると、10代の利用が22.9%と目立つ。40代以上は50%以上、特に60代では60.3%に認知はされているが、あまり利用されていない結果となった。

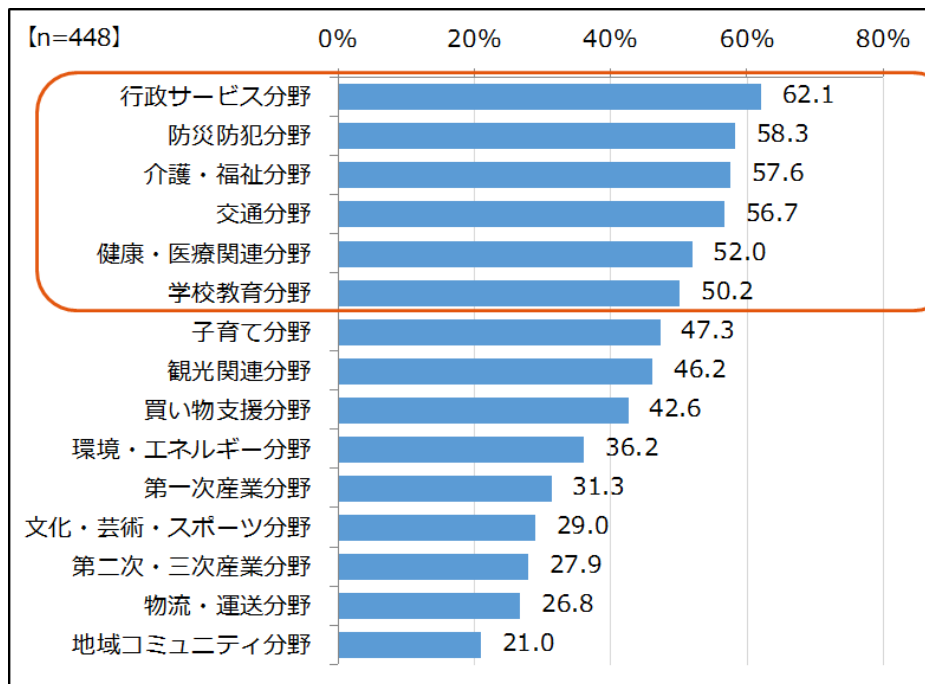
図表 「Nバス検索サイト」の年齢別利用状況



⑤デジタル化を進める分野

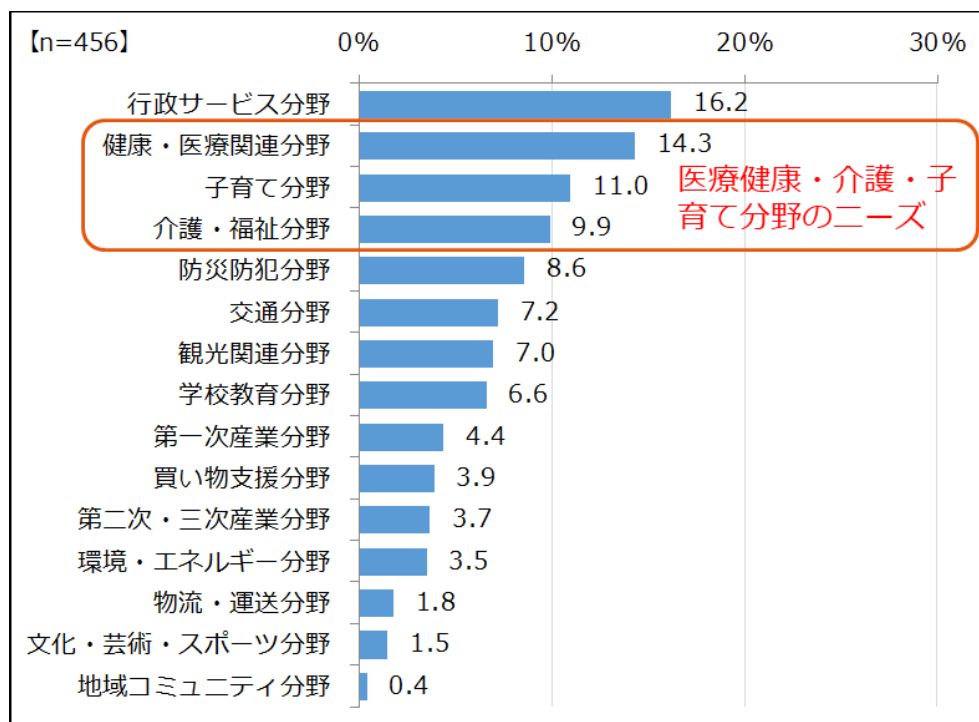
デジタル化を進めるべき分野としては、「行政サービス分野 (62.1%)」、「防災防犯分野 (58.3%)」、「介護・福祉分野 (57.6%)」、「交通分野 (56.7%)」、「健康・医療関連分野 (52.0%)」、「学校教育分野 (50.2%)」の順で 50%を超える結果となった。生活に密接に関連する分野でのデジタル利活用への期待が大きく、観光や第一次産業等の産業分野はやや優先度が低く評価されている。

図表 デジタル化を進めるべき分野(上位3分野)



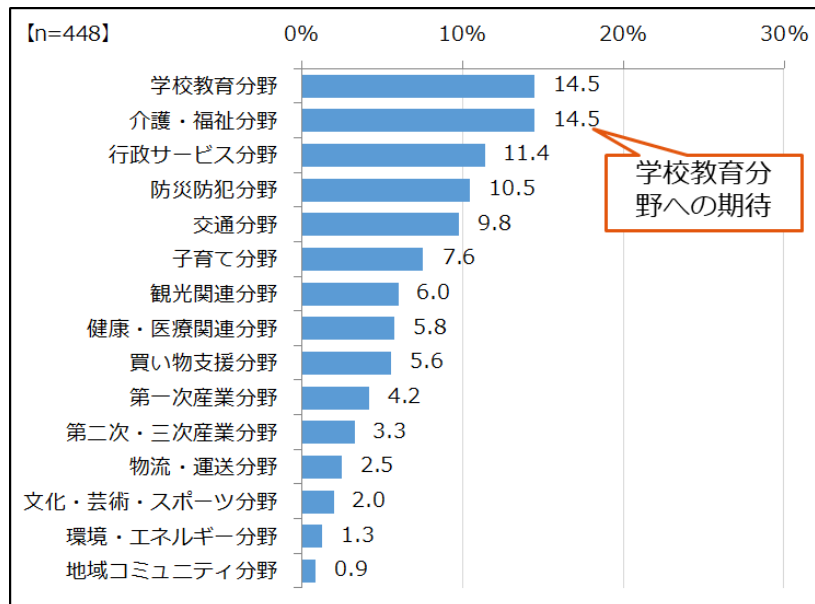
また、「選択した中で1位から3位まで順位づけ」をしたところ、1位分野は全体と同様に「行政サービス分野 (16.2%)」であるが、次いで「健康・医療関連分野 (14.3%)」、「子育て分野 (11.0%)」、「介護・福祉分野 (9.9%)」と若干変動している。健康や医療、福祉、子育て等さらに生活に密着した分野でのデジタル活用が期待されていると言える。

図表 デジタル化を進めるべき分野(1位分野)



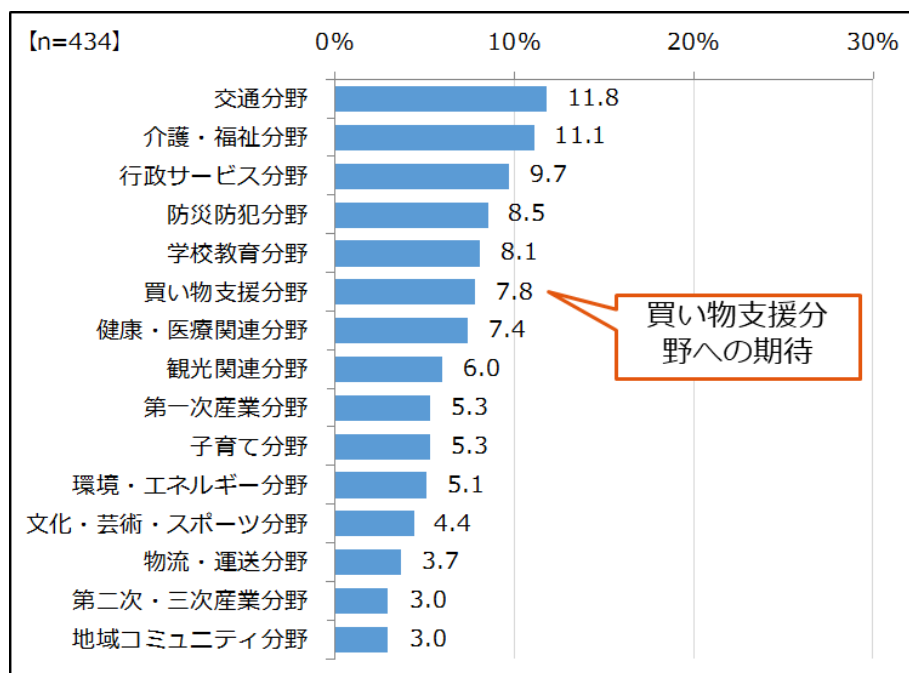
2位の分野では、「学校教育分野（14.5%）」が「介護福祉分野（14.5%）」と並んで最も回答が多くなった。次いで「行政サービス分野（11.4%）」、「防災防犯分野（10.5%）」、「交通分野（9.8%）」と全体の数値と同様の順位となっている。

図表 デジタル化を進めるべき分野(2位分野)



3位の分野も同様の傾向がみられるが、6番目の「買い物支援分野（7.8%）」がやや上位にランクされており、利便性向上に対する期待の一つと考えられる。

図表 デジタル化を進めるべき分野(3位分野)



年齢別に見た傾向としては、40代以降では「介護・福祉分野」や「交通分野」への期待が強い。特に60代では「防災防犯分野」と「介護・福祉分野」でのデジタル活用が期待されている。一方で若年層では、10代で「学校教育分野」と「観光関連分野」が高くなっていることに加え、「第二次・三次産業分野」など産業に関連する分野が比較的高い傾向にある。

図表 デジタル化を進めるべき分野(上位3分野・年齢別)

| | 健康・医療関連分野 | 観光関連分野 | 第一次産業分野 | 第二次・三次産業分野 | 行政サービス分野 |
|------------|-----------|--------|---------|------------|----------|
| 全体(n=444) | 51.8 | 45.9 | 31.1 | 27.7 | 61.9 |
| 10代(n=33) | 57.6 | 66.7 | 30.3 | 39.4 | 60.6 |
| 20代(n=48) | 54.2 | 54.2 | 29.2 | 33.3 | 68.8 |
| 30代(n=77) | 39.0 | 50.6 | 23.4 | 20.8 | 71.4 |
| 40代(n=80) | 53.8 | 46.3 | 32.5 | 26.3 | 61.3 |
| 50代(n=98) | 52.0 | 37.8 | 35.7 | 24.5 | 56.1 |
| 60代(n=108) | 56.5 | 39.8 | 32.4 | 30.6 | 58.3 |

| | 子育て分野 | 学校教育分野 | 防災防犯分野 | 介護・福祉分野 | 交通分野 |
|------------|-------|--------|--------|---------|------|
| 全体(n=444) | 47.3 | 50.2 | 58.3 | 57.2 | 56.5 |
| 10代(n=33) | 54.5 | 63.6 | 51.5 | 48.5 | 51.5 |
| 20代(n=48) | 47.9 | 54.2 | 47.9 | 33.3 | 58.3 |
| 30代(n=77) | 58.4 | 55.8 | 57.1 | 33.8 | 45.5 |
| 40代(n=80) | 53.8 | 56.3 | 62.5 | 62.5 | 63.7 |
| 50代(n=98) | 39.8 | 40.8 | 56.1 | 65.3 | 59.2 |
| 60代(n=108) | 38.9 | 44.4 | 64.8 | 75.9 | 57.4 |

| | 地域コミュニティ分野 | 文化・芸術・スポーツ分野 | 物流・運送分野 | 買い物支援分野 | 環境・エネルギー分野 |
|------------|------------|--------------|---------|---------|------------|
| 全体(n=444) | 20.7 | 28.6 | 26.8 | 42.3 | 36.0 |
| 10代(n=33) | 18.2 | 33.3 | 54.5 | 51.5 | 30.3 |
| 20代(n=48) | 14.6 | 29.2 | 35.4 | 45.8 | 29.2 |
| 30代(n=77) | 20.8 | 22.1 | 29.9 | 53.2 | 33.8 |
| 40代(n=80) | 23.8 | 36.3 | 25.0 | 43.8 | 43.8 |
| 50代(n=98) | 15.3 | 24.5 | 23.5 | 39.8 | 35.7 |
| 60代(n=108) | 26.9 | 29.6 | 16.7 | 31.5 | 37.0 |

(60%以上を強調表示)

転居意向別に見ると、「住み続けたいが転居する」と「転居する」層では「行政サービス分野(74.2%、80.0%)」や「交通分野(61.3%、50.0%)」でのデジタル化ニーズが高くなっている。現状の不満をデジタルで解消してほしいとの意向が表れていると考えられる。また、多数を占める「住み続けると思う」層においても「防災防犯分野(64.0%)」や「介護・福祉分野(63.1%)」でのデジタル利活用ニーズが高い。これらの分野における、さらなる向上が期待されていると思われる。

図表 デジタル化を進めるべき分野(上位3分野・転居意向別)

| | 健康・医療関連分野 | 観光関連分野 | 第一次産業分野 | 第二次・三次産業分野 | 行政サービス分野 |
|----------------------|-----------|--------|---------|------------|----------|
| 全体(n=442) | 51.8 | 46.4 | 31.0 | 27.4 | 61.8 |
| 住み続けると思う(n=317) | 52.4 | 45.7 | 33.1 | 27.4 | 59.6 |
| 住み続けたいが転居すると思う(n=31) | 51.6 | 51.6 | 25.8 | 29.0 | 74.2 |
| 転居すると思う(n=32) | 43.3 | 53.3 | 26.7 | 33.3 | 80.0 |
| わからない(n=64) | 53.1 | 43.8 | 25.0 | 23.4 | 57.8 |

| | 子育て分野 | 学校教育分野 | 防災防犯分野 | 介護・福祉分野 | 交通分野 |
|----------------------|-------|--------|--------|---------|------|
| 全体(n=442) | 47.1 | 50.0 | 58.1 | 57.0 | 56.8 |
| 住み続けると思う(n=317) | 47.3 | 49.8 | 64.0 | 63.1 | 57.7 |
| 住み続けたいが転居すると思う(n=31) | 58.1 | 54.8 | 51.6 | 48.4 | 61.3 |
| 転居すると思う(n=32) | 46.7 | 56.7 | 56.7 | 46.7 | 50.0 |
| わからない(n=64) | 40.6 | 45.3 | 32.8 | 35.9 | 53.1 |

| | 地域コミュニティ分野 | 文化・芸術・スポーツ分野 | 物流・運送分野 | 買い物支援分野 | 環境・エネルギー分野 |
|----------------------|------------|--------------|---------|---------|------------|
| 全体(n=442) | 20.6 | 28.5 | 26.7 | 42.3 | 36.0 |
| 住み続けると思う(n=317) | 24.0 | 29.3 | 24.0 | 40.7 | 38.8 |
| 住み続けたいが転居すると思う(n=31) | 3.2 | 29.0 | 32.3 | 51.6 | 16.1 |
| 転居すると思う(n=32) | 26.7 | 33.3 | 36.7 | 43.3 | 40.0 |
| わからない(n=64) | 9.4 | 21.9 | 32.8 | 45.3 | 29.7 |

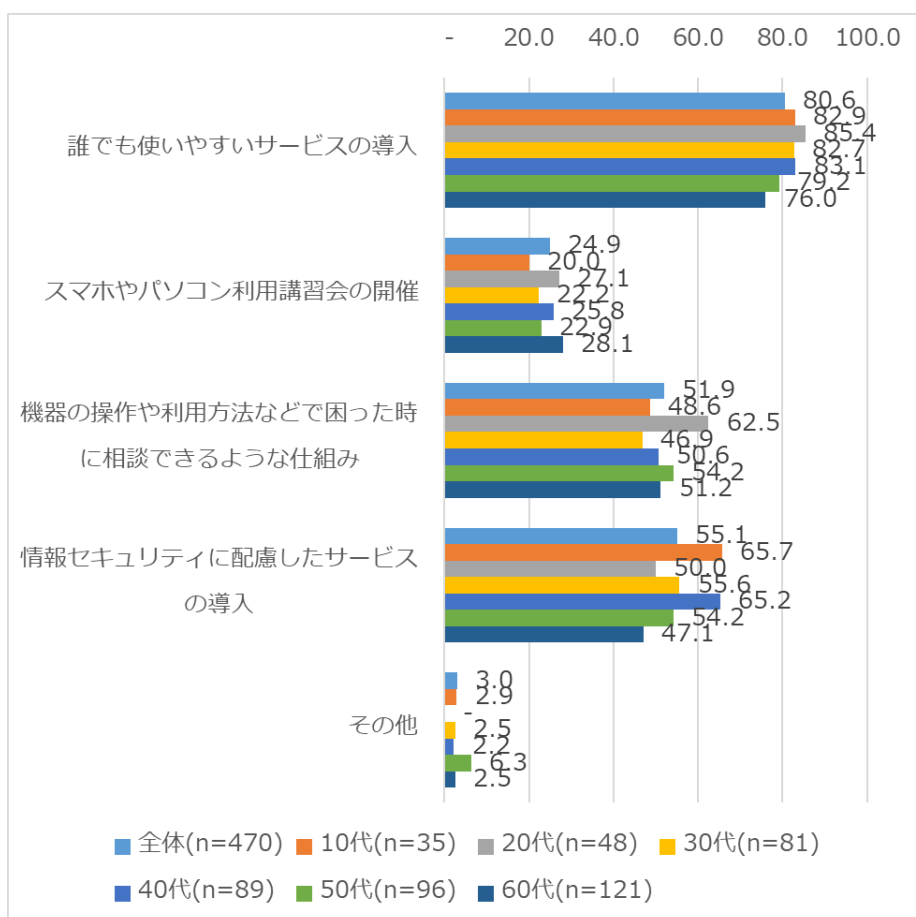
(60%以上を強調表示)

⑥デジタル化への支援

デジタル化が進展するために必要な支援としては、「誰でも使いやすいサービスの導入」が全体では80.6%の回答を集めている。10代～40代での回答がやや多い結果となっている。また、「情報セキュリティに配慮したサービスの導入」は全体で55.1%、20代（65.7%）と40代（65.2%）の回答がやや目立っている。「機器の操作や利用方法などで困ったときに相談できるような仕組み」は全体で51.9%であるが、高齢者層だけではなく20代が62.5%も回答しているように、多くの世代で必要とされていることが示された。

その反面、「スマホやパソコンの利用講習会」は24.9%と他の選択肢と比べてあまり期待されていない結果となった。

図表 デジタル化進展に必要な支援(全体・年齢別)



⑦デジタル化への期待

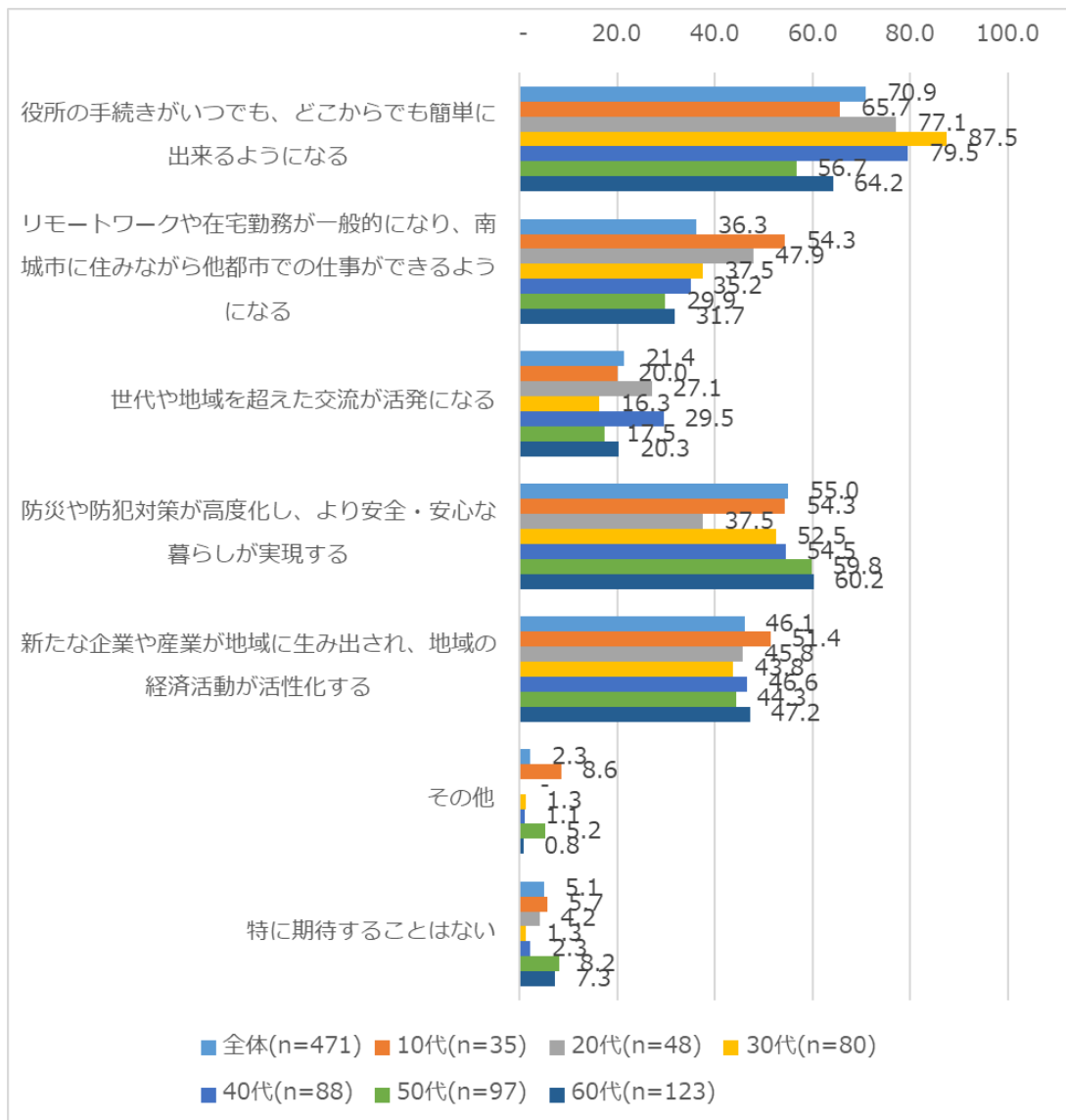
デジタル社会への期待としては、「特に期待しない」が5.1%に止まっており、若干50代と60代の期待が弱くなっているものの、多くの方は何らかの期待をしていると評価できる。

特に「役所の手続きがいつでもどこから簡単にできる」は70.9%と期待が高く、なかでも30代(87.5%)と40代(79.5%)での期待が大きいことが分かる。

「防災や防犯対策の高度化による安全・安心な暮らし」も55.9%が回答しており、50代(59.8%)と60代(60.2%)の期待が比較的高くなっている。

また、この設問においては、「新たな企業や産業が地域に生み出され、地域の経済活動が活性化する」が46.1%と期待されている。なかでも、20代が51.4%と最も高い期待を示している。

図表 デジタル社会への期待(全体・年齢別)

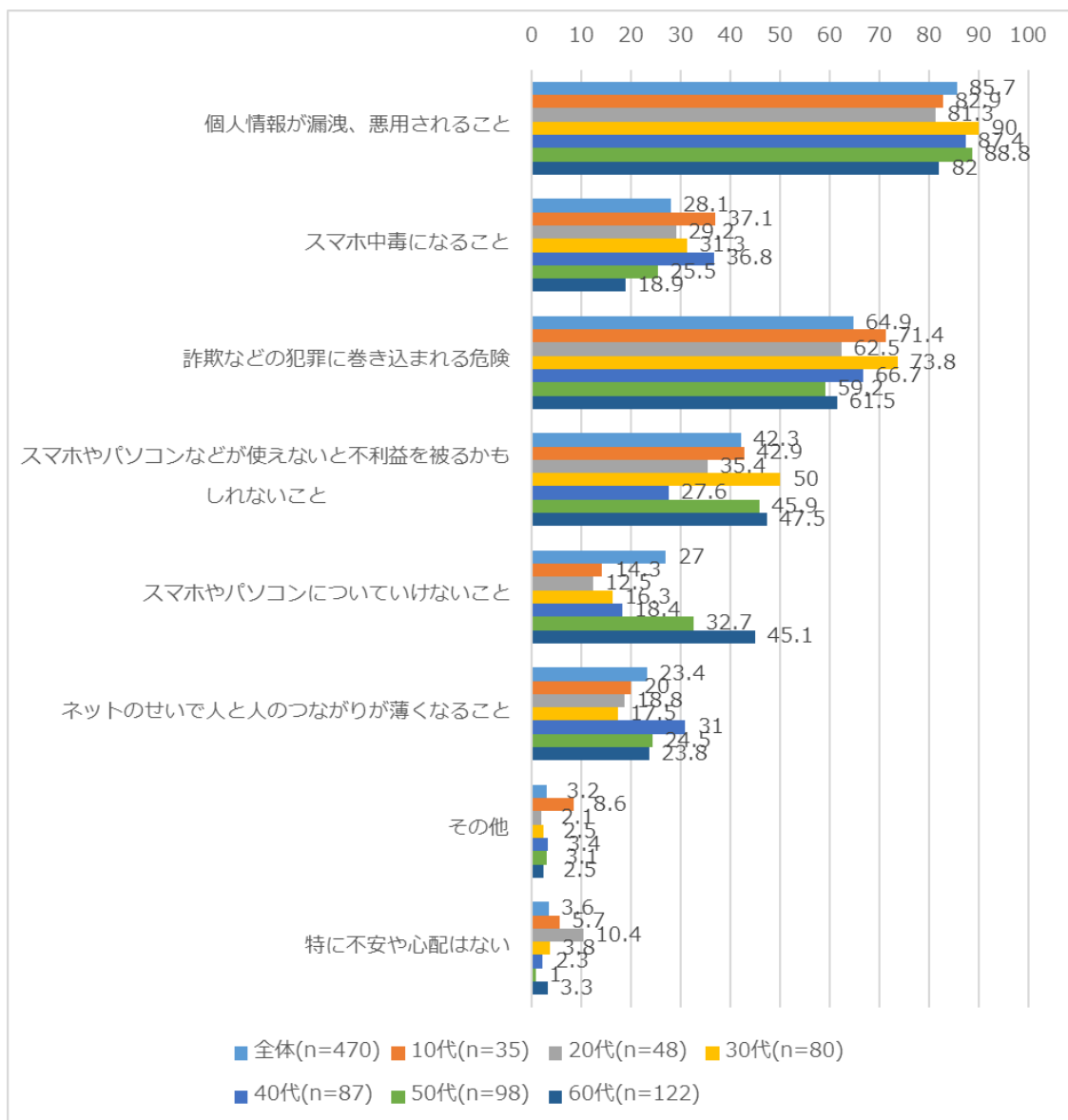


⑧デジタル化への不安

デジタル化の進展に対して「特に不安や心配はない」とする回答が3.6%に止まっており、多くの方が何らかの不安を抱いている。特に20代の回答が10.4%と目立っており、若い層でもデジタル化に対して何らかの不安があることが示されている。

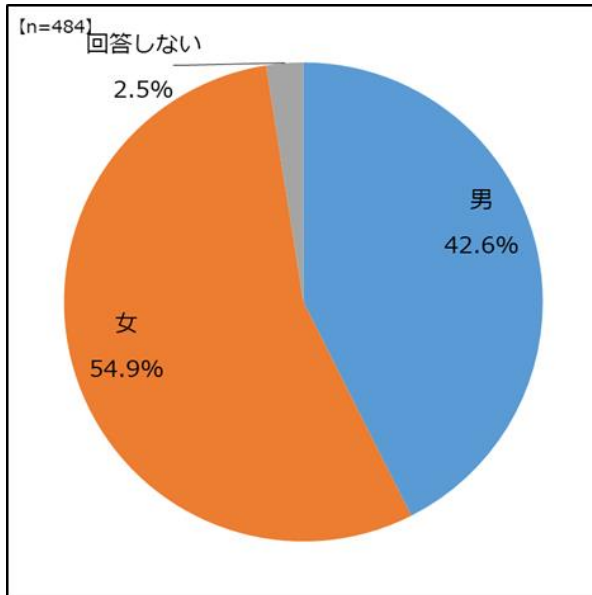
具体的な不安としては、「個人情報の漏洩・悪用」は85.7%、「詐欺などの犯罪に巻き込まれる危険」は64.9%が心配に感じており、多少のばらつきはあるがどの年齢層でも不安を感じている。「スマホやパソコンなどが使えないと不利益を被るかもしれないこと」は全体で42.3%が感じているが、50代(45.9%)・50代(47.5%)以上に30代の50%が不安を感じているように、高齢層に限らず情報機器を使えないことの格差への不安があることが示されている。これらの不安の解消がデジタル施策の導入には必要である。

図表 デジタル社会への不安(全体・年齢別)

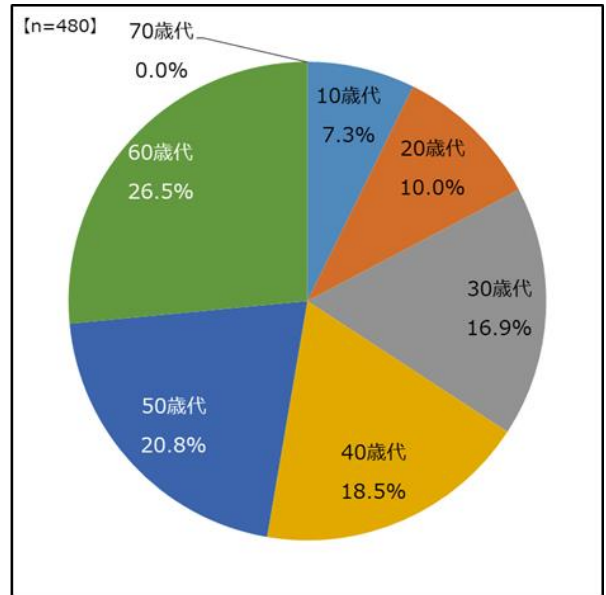


⑨回答者属性

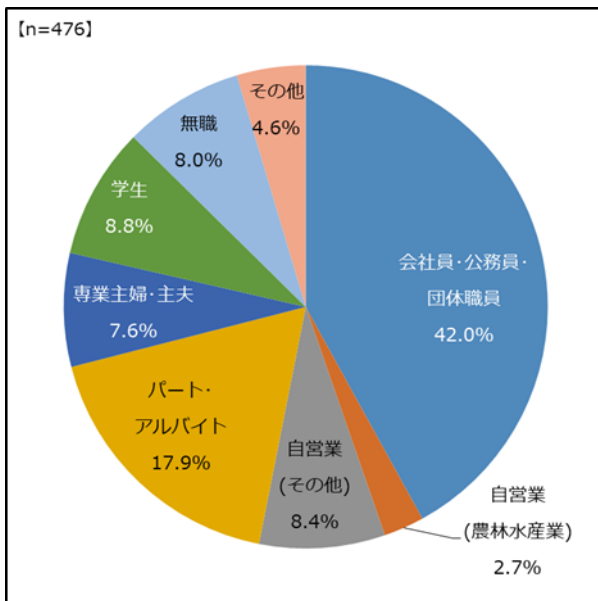
性別



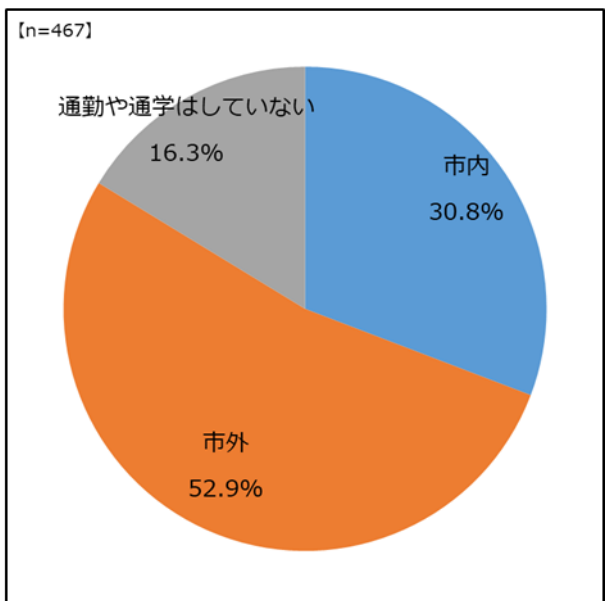
年齢



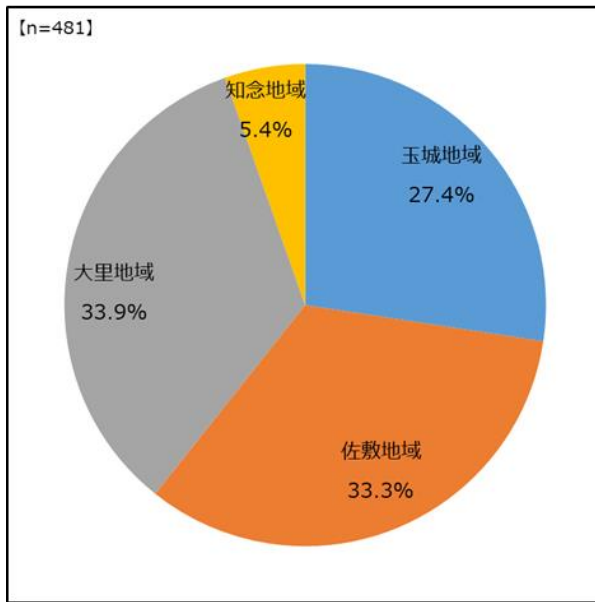
職業



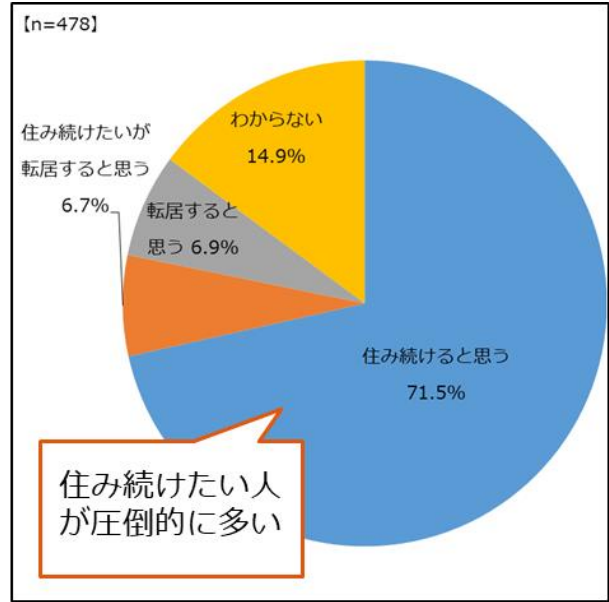
通勤・通学先



居住地域



転居意向



⑩調査票

南城市のデジタル化・DX推進に係るアンケート調査

<回答にあたってのお願い>

- ・ 調査表は、お送りした封筒の宛名の方がご記入ください。郵送もしくはWebアンケートでの回答をお願いします（どちらか一つで結構です）。
- ・ 設問はほとんど選択式になっています。該当する番号を選んでください。
- ・ 設問によっては、わからない・難しいと感じる内容が出てくる場合があります。その際は設問を飛ばしていただいて構いませんが、できる限りご回答いただきますようお願いいたします。
- ・ 郵送での返送の場合は、ご記入頂いた調査票を返信用封筒（切手不要です）に入れて、2022年11月21日(月)までにご投函ください。Webでの回答締め切りも11月21日(月)です。

設問1 まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

1-1.性別（当てはまる数字に○）

1. 男 2. 女 3. 回答しない

1-2.年齢（当てはまる数字に○）

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代

1-3.職業（当てはまる数字に○）

1. 会社員・公務員・団体職員 2. 自営業(農林水産業) 3. 自営業(その他) 4. パート・アルバイト
5. 専業主婦・主夫 6. 学生 7. 無職 8. その他()

1-4.日々の通勤や通学先は南城市内でしょうか(当てはまる数字に○)

1. 市内 2. 市外 3. 通勤や通学はしていない

1-5.お住まいの地域（当てはまる数字に○）

- 1.玉城地域 2. 佐敷地域 3. 大里地域 4. 知念地域

1-6.今後も南城市に住み続けたいと思いますか（当てはまる数字に○）

1. 住み続けると思う 2. 住み続けたいが転居すると思う 3. 転居すると思う 4. わからない

設問2 あなたの情報通信機器やインターネットの利用状況についてお伺いします。

2-1.以下の情報通信機器等を利用していますか。各項目ごとに当てはまる数字に○をつけてください。

| | 1.利用している | 2.今は利用していないが、これから利用したい | 3.利用したいと思わない |
|----------------|----------|------------------------|--------------|
| スマートフォン | 1 | 2 | 3 |
| 携帯電話（いわゆるガラケー） | 1 | 2 | 3 |
| タブレット端末 | 1 | 2 | 3 |
| パソコン | 1 | 2 | 3 |
| ゲーム機器 | 1 | 2 | 3 |

2-2.インターネットを利用していますか。LINEやSNSの利用も含めてお答えください（○は一つ）。

1. 毎日必ず利用している 2. 数日に一度は利用している 3. 時々（たまに）利用している
4. 今は利用していないが、今後は利用したい 5. 利用したいと思わない

2-3.利用しているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を選んでください（○はいくつでも）。

1. LINE 2. Twitter 3. Instagram 4. Facebook 5. YouTube

設問3 あなたの南城市に対する満足度や印象についてお伺いします。

3-1.あなたは南城市で生活していて、どのくらい満足していますか。各項目について評価してください。各項目ごとに当てはまる数字を一つ選んで○を付けてください。


| | 1.とても満足 | 2.満足 | 3.普通 | 4.やや不満 | 5.不満 |
|-----------|---------|------|------|--------|------|
| 医療・健康 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 介護・福祉 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 交通 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 自然災害 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 犯罪・事故 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 住みやすさ・便利さ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 子育て | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学校教育 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 文化・芸術 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 地域とのつながり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 市内での雇用・仕事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

設問4 電子的な行政サービスについてお伺いします。

4-1.あなたは、南城市が提供している以下の電子的な行政サービスを利用していますか。各項目ごとに当てはまる数字を一つ選んで○を付けてください。

| | 1.利用している | 2.知っているが利用していない | 3.知らない |
|----------------------------------|----------|-----------------|--------|
| 南城市公式ホームページ | 1 | 2 | 3 |
| 南城市公式SNS (Facebook、Twitter、LINE) | 1 | 2 | 3 |
| 南城市メール | 1 | 2 | 3 |
| 証明書のコンビニ交付 | 1 | 2 | 3 |
| 公共施設予約システム | 1 | 2 | 3 |
| 申請書ダウンロード | 1 | 2 | 3 |
| Nバス検索サイト | 1 | 2 | 3 |
| 南城市電子図書館 | 1 | 2 | 3 |
| 南城市公共Wi-Fi | 1 | 2 | 3 |

4-2.あなたは、南城市はどの分野でデジタル活用を進めていくべきだと思いますか。当てはまるものを全て選んで数字に○を付けてください。また、その中で期待することの上位3つを選んでその数字を記入ください。

 以下の分野から選んで数字に○を付けてください（○はいくつでも）。

1. 健康・医療関連分野
例) 健康関連データの活用や、テレビ会議システムを活用した遠隔診療の促進
2. 観光関連分野
例) キャッシュレスやスマホでのチケット購入など、観光来訪者を増やす取り組み
3. 第一次産業分野
例) 農業や漁業でデータを活用し、収穫量の向上や売り上げを伸ばす取り組み
4. 第二次・三次産業分野
例) ICT関連企業の誘致や、既存事業所のICT活用を進めて市内の産業活性化を図る取り組み
5. 行政サービス分野
例) 市役所の窓口に行かなくても、スマホなどでどこからでも行政サービスを受けられる仕組み
6. 子育て分野
例) 子育てに関する相談や困りごとの対応にICTを活用する仕組み
7. 学校教育分野
例) 遠隔授業やプログラミング授業など、ICTの能力を高める教育の拡大
8. 防災防犯分野
例) 災害や犯罪発生時の緊急情報や、避難情報などを全ての市民に迅速・確実に伝達
9. 介護・福祉分野
例) 高齢者や障がい者も安心して暮らせるように支援する仕組み
10. 交通分野
例) 好きな時間・場所で乗り降りできるなど、市内バスをより便利に利用できる仕組み
11. 地域コミュニティ分野
例) オンラインツールを活用し、自治会や市民の交流を促進する仕組み
12. 文化・芸術・スポーツ分野
例) オンラインを活用した地域の文化や、市民の芸術やスポーツ活動の活発化
13. 物流・運送分野
例) ドローンやロボットを活用した、宅配便等の自動配送の実現
14. 買い物支援分野
例) トラックによる生活必需品の訪問販売や「御用聞き」サービス等、日常的な買い物の利便性向上
15. 環境・エネルギー分野
例) 環境関連データを活用した環境保全活動や、ごみ削減・新エネルギーに向けたデジタル活用



| | | | |
|----------------------------|----|----|----|
| 選んだ分野から重要と思う分野の数字を3つ記入ください | 1位 | 2位 | 3位 |
|----------------------------|----|----|----|

4-3.あなたは、今後デジタル社会が進展する際に、どのような支援が必要だと思いますか。当てはまるものを全て選んで数字に○を付けてください。

1. 誰でも使いやすいサービスの導入
2. スマホやパソコン利用講習会の開催
3. 機器の操作や利用方法などで困った時に相談できるような仕組み
4. 情報セキュリティに配慮したサービスの導入
5. その他 ()

4-4.あなたは、今後のデジタル社会の進展に期待することはありますか。当てはまるものを全て選んで数字に○を付けてください。「7. 特に期待することはない」はそれだけを選んでください。

1. 役所の手続きがいつでも、どこからでも簡単に出来るようになる
2. リモートワークや在宅勤務が一般的になり、南城市に住みながら他都市での仕事ができるようになる
3. 世代や地域を超えた交流が活発になる
4. 防災や防犯対策が高度化し、より安全・安心な暮らしが実現する
5. 新たな企業や産業が地域に生み出され、地域の経済活動が活性化する
6. その他 ()
7. 特に期待することはない（注：この選択肢を選ぶ場合は、他の選択肢を選ばせん）

4-5.あなたは、今後のデジタル社会の進展に不安に思うことはありますか。当てはまるものを全て選んで数字に○を付けてください。「8. 特に不安や心配はない」はそれだけを選んでください。

1. 個人情報漏洩、悪用されること
2. スマホ中毒になること
3. 詐欺などの犯罪に巻き込まれる危険
4. スマホやパソコンなどが使えないと不利益を被るかもしれないこと
5. スマホやパソコンについていけないこと
6. ネットのせいで人と人のつながりが薄くなること
7. その他 ()
8. 特に不安や心配はない（注：この選択肢を選ぶ場合は、他の選択肢を選ばせん）

4-6.南城市におけるデジタル技術を活用した取り組みについて、ご意見やご要望、またはデジタル化を進めていくべきだと思う具体的内容等がありましたら、ご自由にお書きください。

～お忙しいところ、ご協力いただきましてありがとうございました～